

**2022年度返品実態報告
加工食品・日用品の返品実態調査結果**

2023年7月14日

製・配・販連携協議会 事務局

(作成：公益財団法人流通経済研究所)

報告の構成

1. 調査概要
2. 加工食品の返品実態報告
3. 日用品の返品実態報告

(資料)

- 加工食品・日用品の返品実態調査結果詳細資料

1. 返品実態報告 – 調査概要

■ 調査の目的

- 返品削減推進の前提として、返品の実態把握と問題意識の共有を図ることを目的として、返品実態調査を実施した。

■ 調査の方法

- 製・配・販連携協議会に加盟する卸売業及び小売業に対し、アンケート形式で調査を行った。

■ 調査の項目

- 卸売業調査
 - 小売業への売上高、小売業からの返品額、小売業からの返品理由
 - メーカーからの仕入高、メーカーへの返品額、メーカーへの返品理由
 - 返品処理経費
- 小売業調査
 - 卸売業等からの仕入額、卸売業等への返品額、卸売業等への返品理由

加工食品の返品実態報告

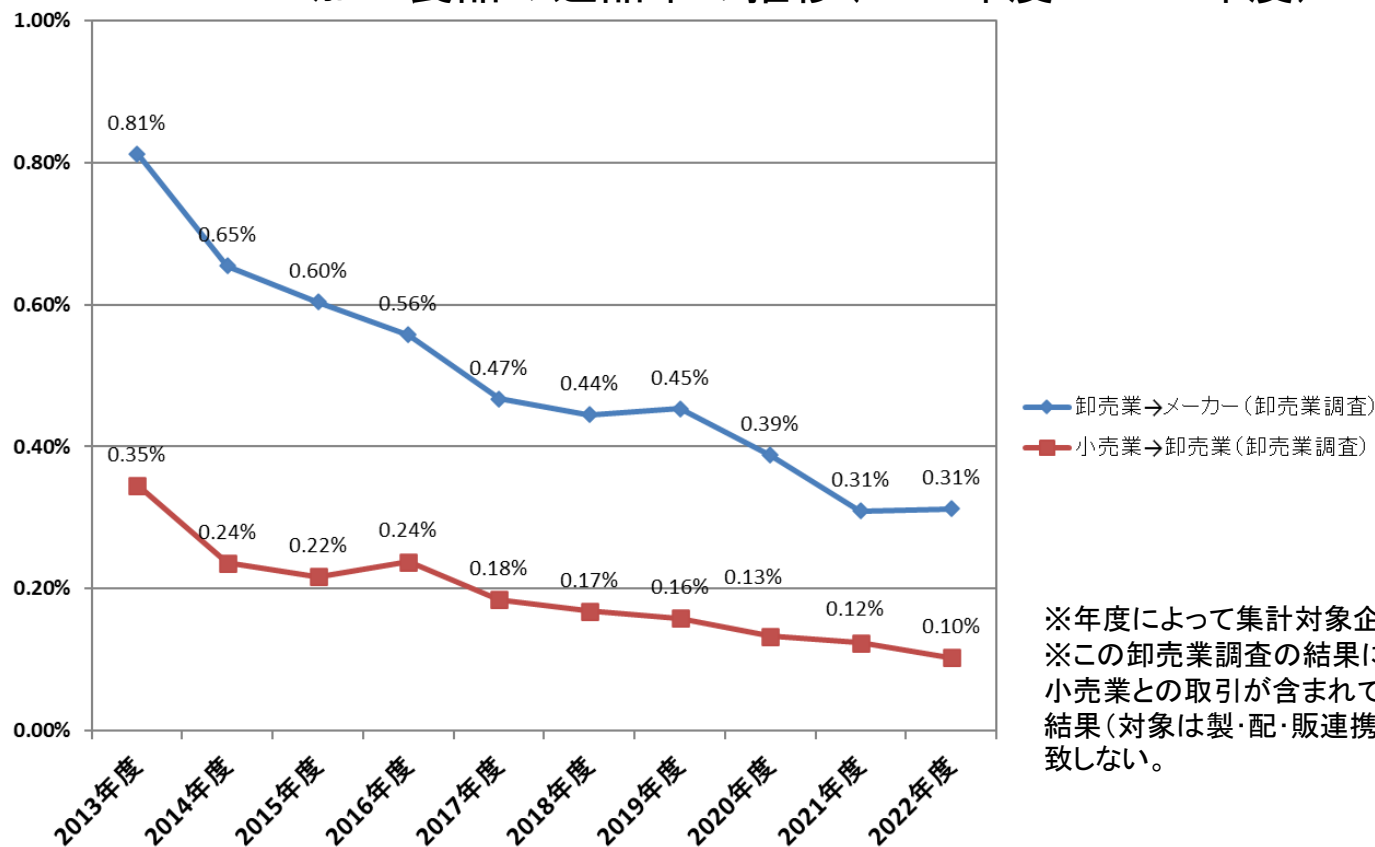
1.1 加工食品の返品実態報告

(1) 返品率の推移 – 卸売業調査

■ 加工食品の2022年度の返品率に関して、卸売業からの返品は横ばいであり、小売業からの返品は前年度に比べて低下した。

- 「卸売業→メーカー」の返品率は0.31%、前年度同様横ばいであった。
- 「小売業→卸売業」の返品率は0.10%、前年度よりやや低下した。

加工食品の返品率の推移(2013年度～2022年度)



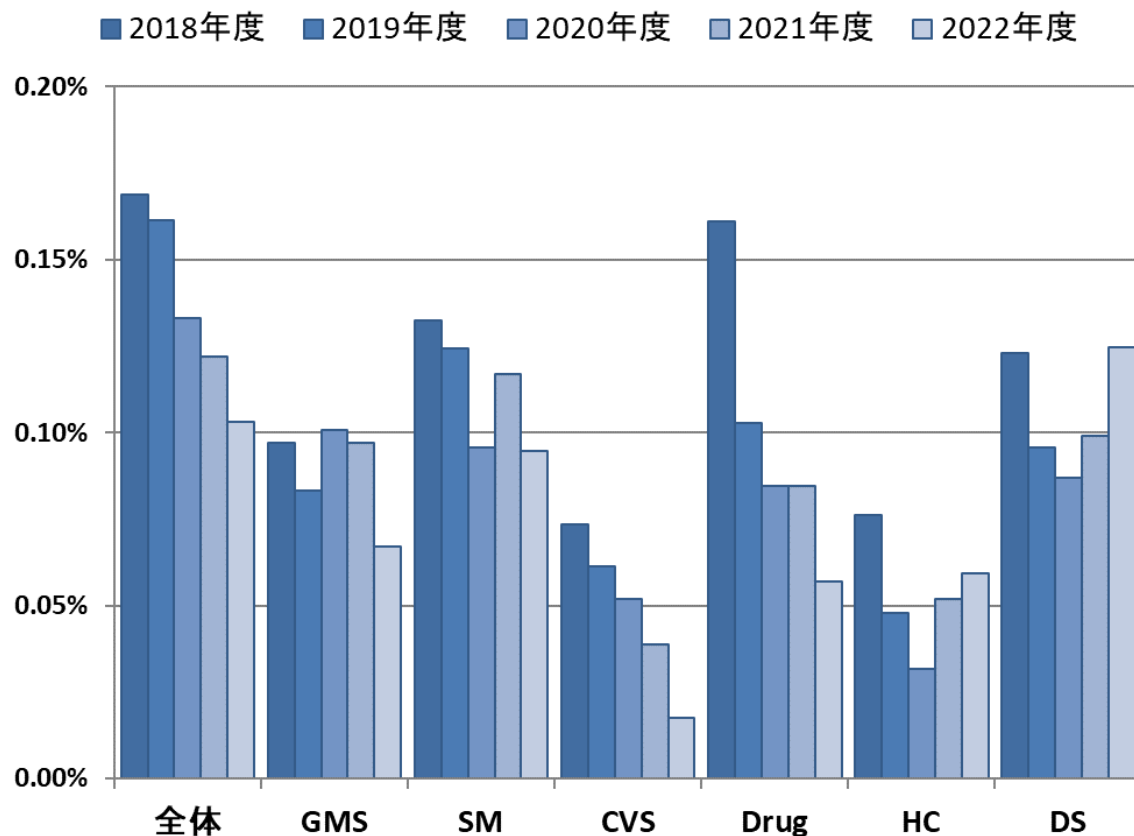
※年度によって集計対象企業が異なる。
※この卸売業調査の結果には、協議会非加盟の多数の小売業との取引が含まれている。後述の小売業調査の結果(対象は製・配・販連携協議会加盟小売業)とは一致しない。

1.1.加工食品の返品実態報告

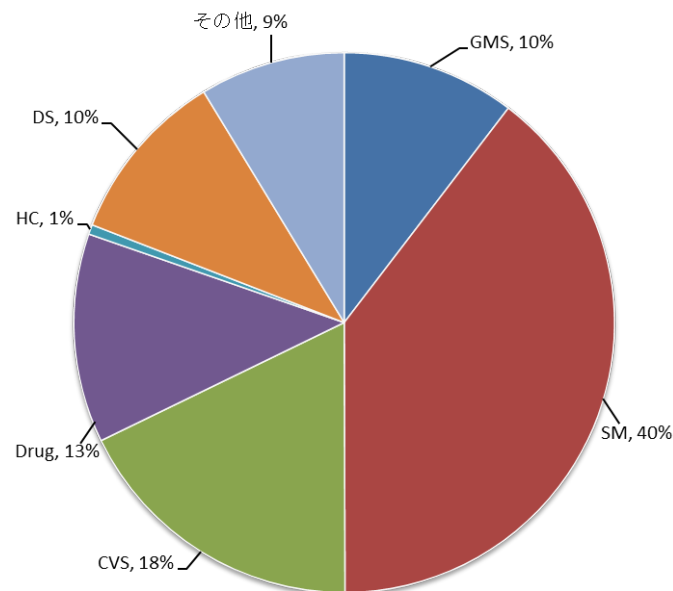
(2) 小売業態別の返品率 – 卸売業調査

- 卸売業調査にて、「小売業→卸売業」の返品率を業態別に集計した。2022年度はGMS、SM、CVS、Drug業態で、前年度よりも低下した。

主要業態別の返品率(2018年度～2022年度)



主要業態別の売上構成比 (2022年度)



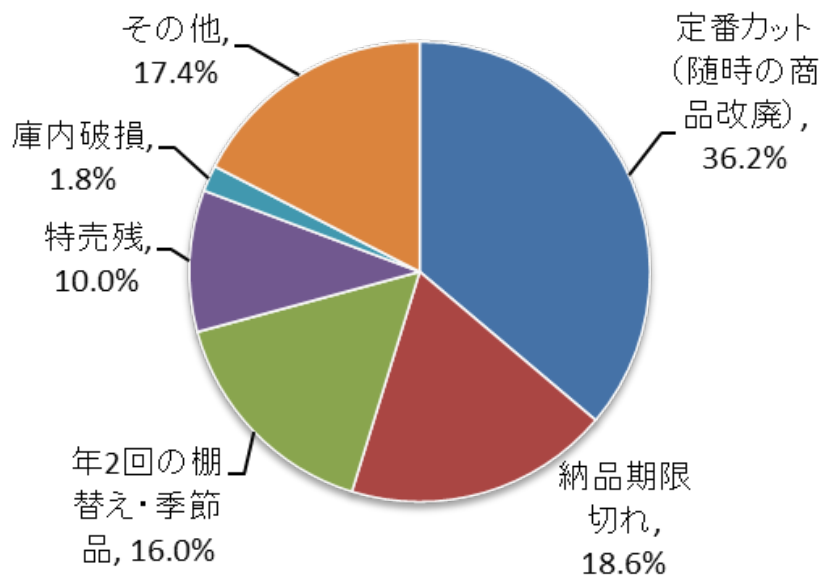
1.1.加工食品の返品実態報告

(3) 返品が発生理由－卸売業調査

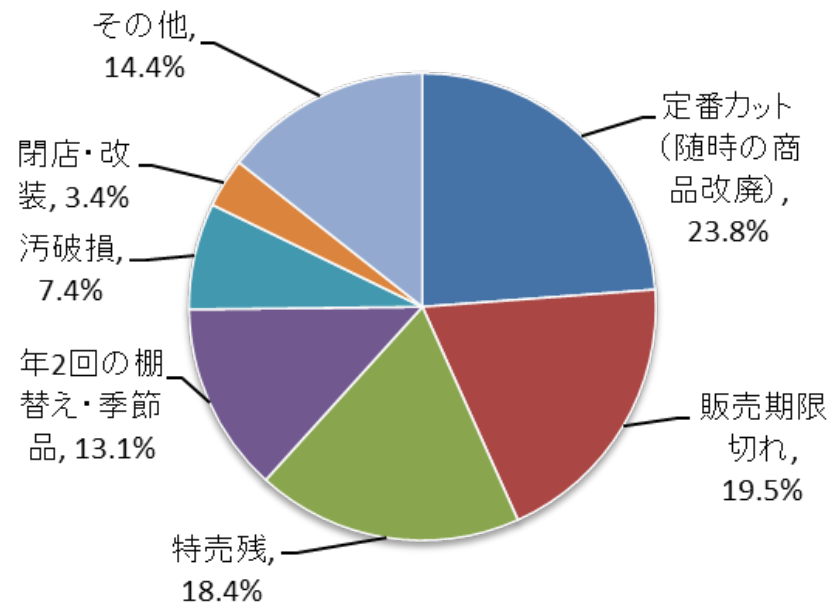
- 「卸売業→メーカー」の返品が発生理由は、「定番カット」(36.2%)が最も多く、「納品期限切れ」(18.6%)、「年2回の棚替え・季節品」(16.0%)が続いている。
- 「小売業→卸売業」の返品では、「定番カット」(23.8%)が最も多く、「販売期限切れ」(19.5%)、「特売残」(18.4%)が続いている。

加工食品の返品が発生理由(2022年度)

＜卸売業→メーカー＞



＜小売業→卸売業＞

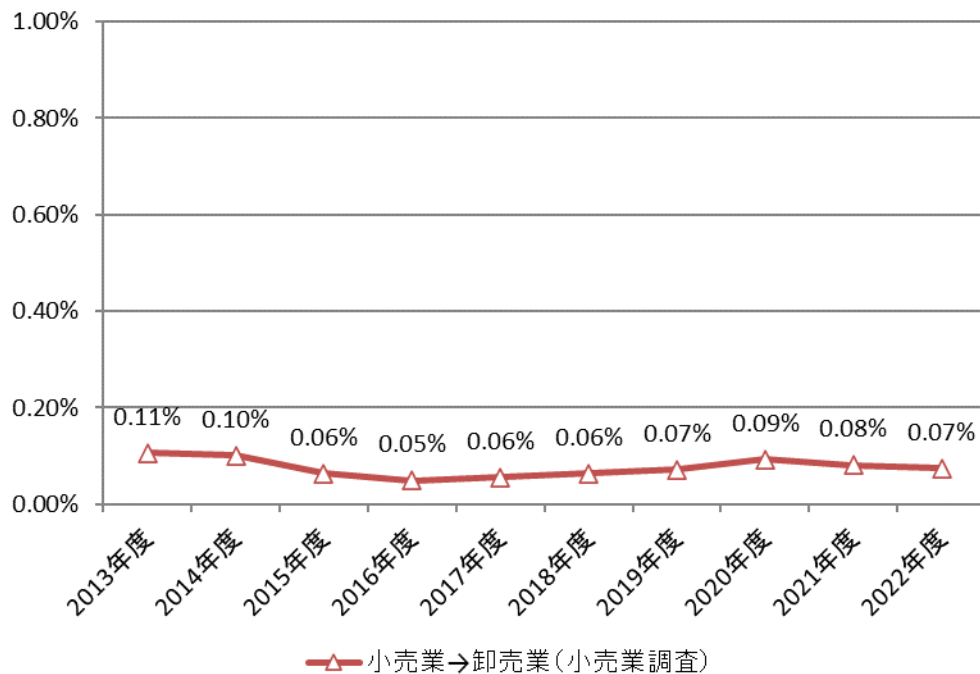


1.1.加工食品の返品実態報告

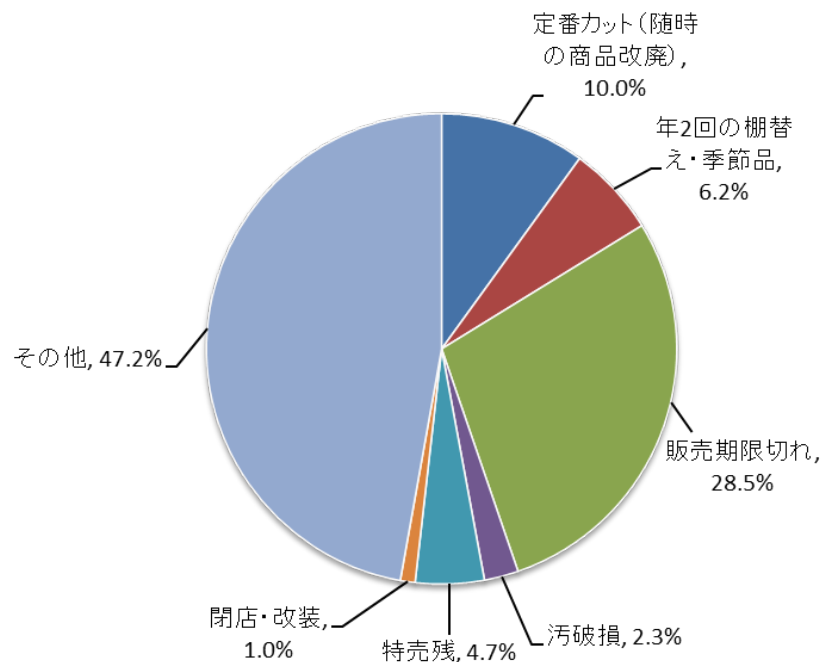
(4) 返品率・返品発生理由－小売業調査

- 小売業調査における返品率は、昨年度よりも低下した。
- 「小売業→卸売業」の返品発生理由は「その他（メーカー起因等）（47.2%）」が最も多く、「販売期限切れ」（28.5%）などが多い。

加工食品の小売業から卸売業への返品実態
＜返品率の推移＞



＜返品発生理由(2022年度)＞



※年度によって集計対象企業が異なる。

※この小売業調査の対象は製・配・販連携協議会加盟小売業であり、前述の卸売業調査の結果(加盟卸売業を対象とした、協議会非加盟の多数の小売業との取引が含まれている回答結果)とは一致しない。

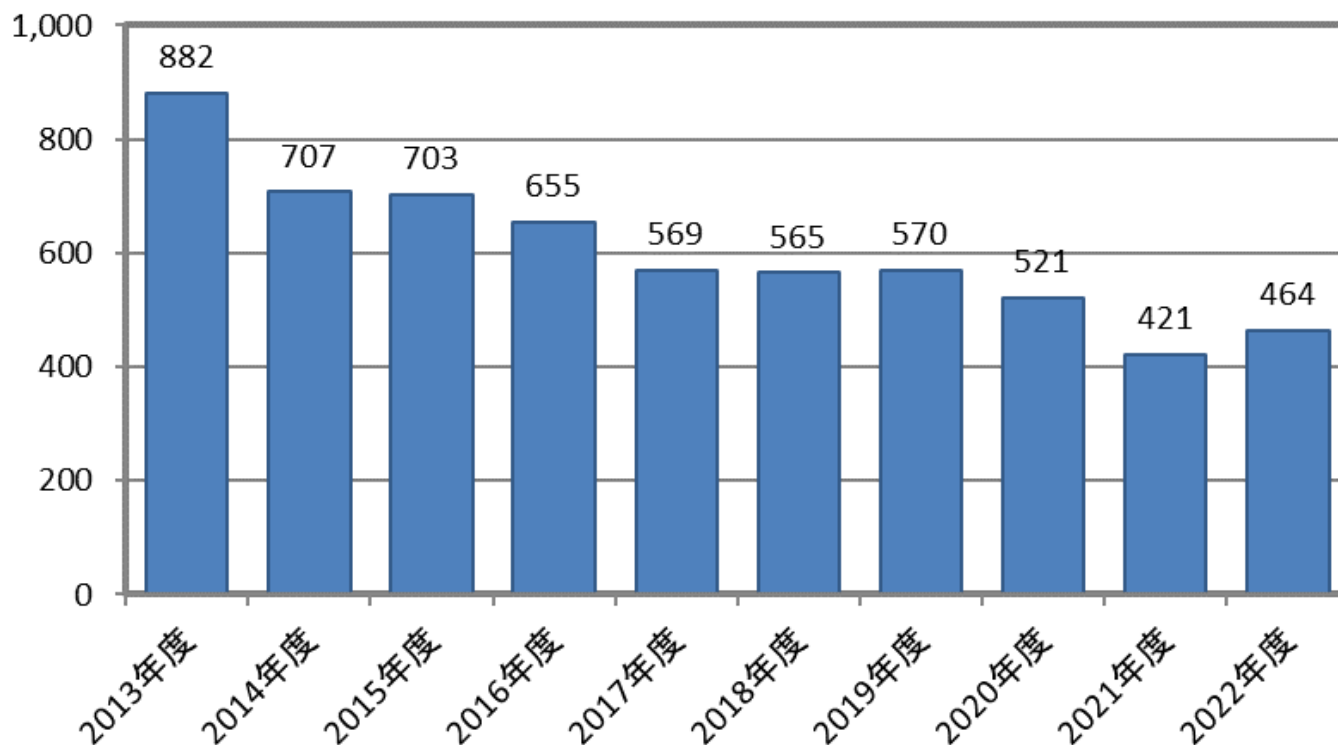
※小売業調査は2021年度に返品対象を一部変更した。この変更に伴い、2015-2020年度の数値も修正した。

1.1.加工食品の返品実態報告

(5) 業界全体の返品額推計

- 業界全体の「卸売業→メーカー」の返品額を推計した。
- 2022年度の業界全体の返品額は464億円と推計される。推計された返品額は増加しているが、マーケット市場規模拡大に伴っての増加である。

加工食品の業界全体の返品額推計
(卸売業→メーカー、2013年度～2022年度、億円)



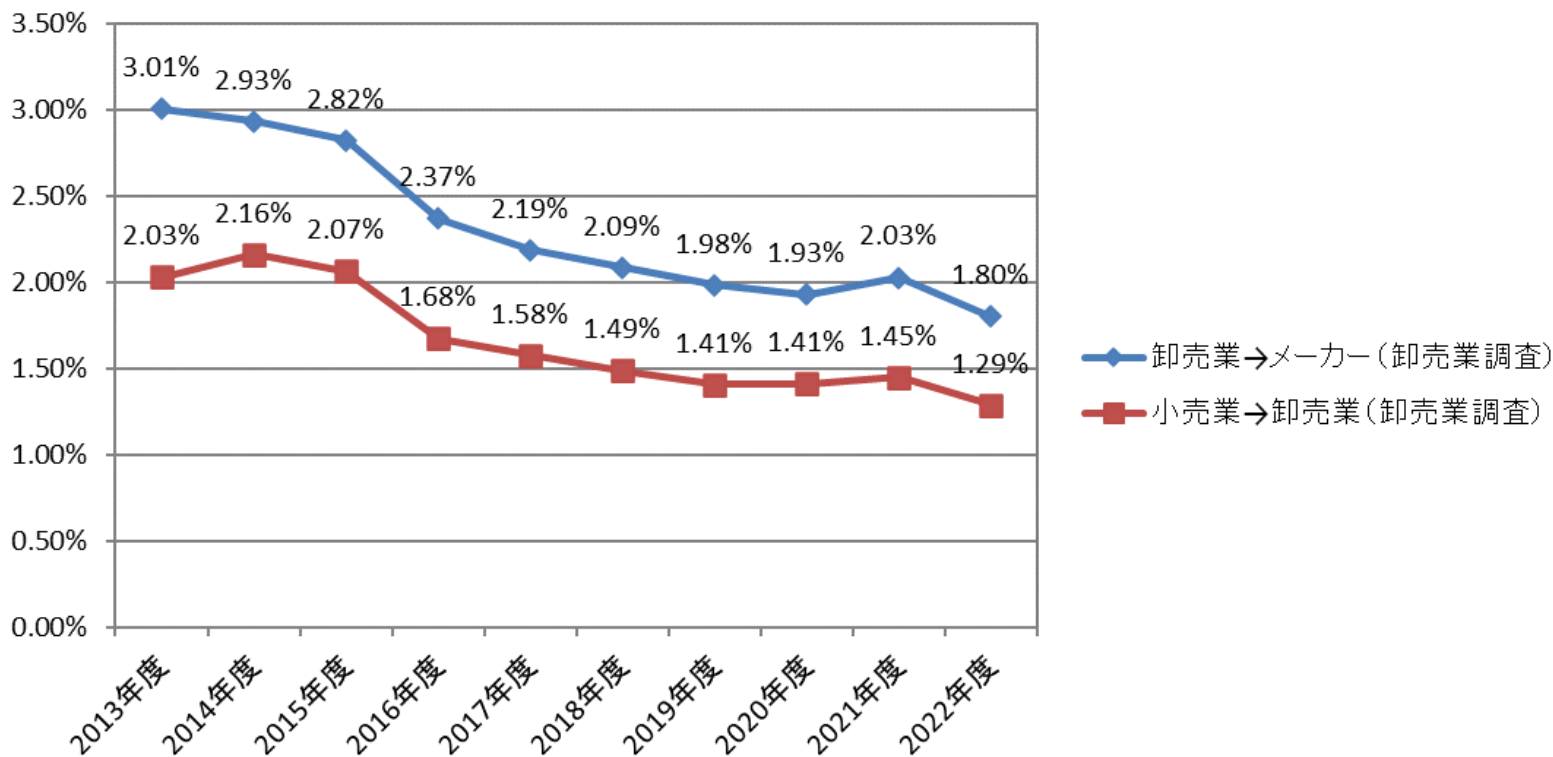
日用品の返品実態報告

1.2. 日用品の返品実態報告

(1) 日用雑貨の返品実態 – 卸売業調査 ①返品率の推移

- 卸売業調査によると、「卸売業→メーカー」の返品率は2021年度に1.80%、前年度より減少した。
- 卸売業調査の「小売業→卸売業」の返品率は1.29%、前年度より減少した。

日用雑貨の返品率の推移(2013年度～2022年度)

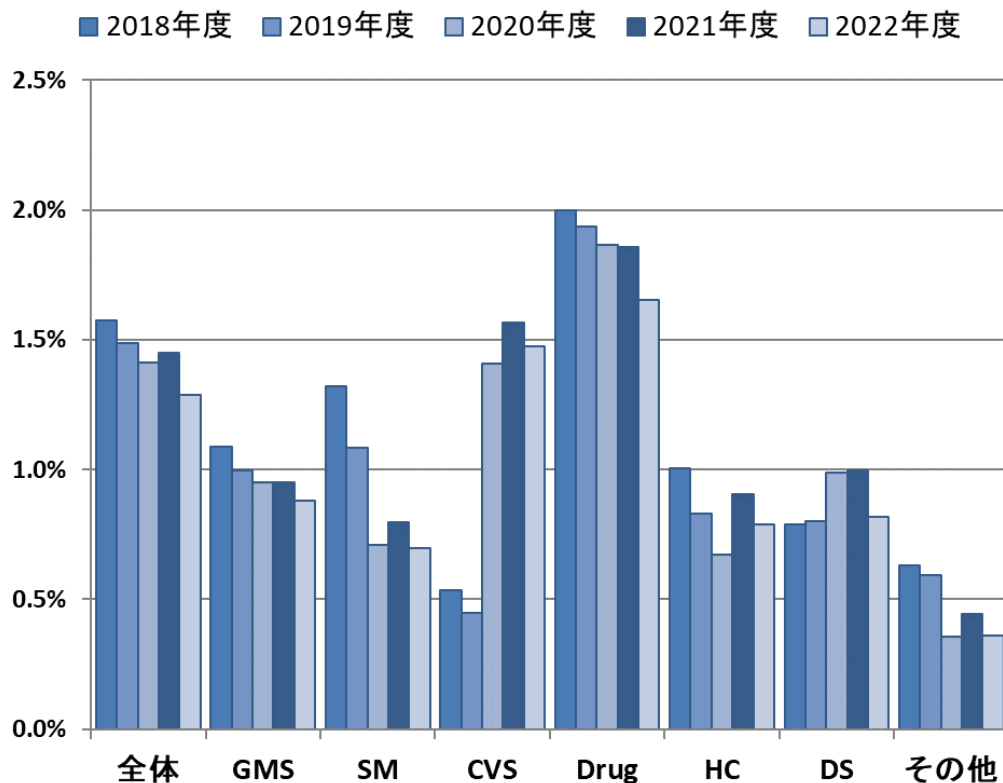


1.2. 日用品の返品実態報告

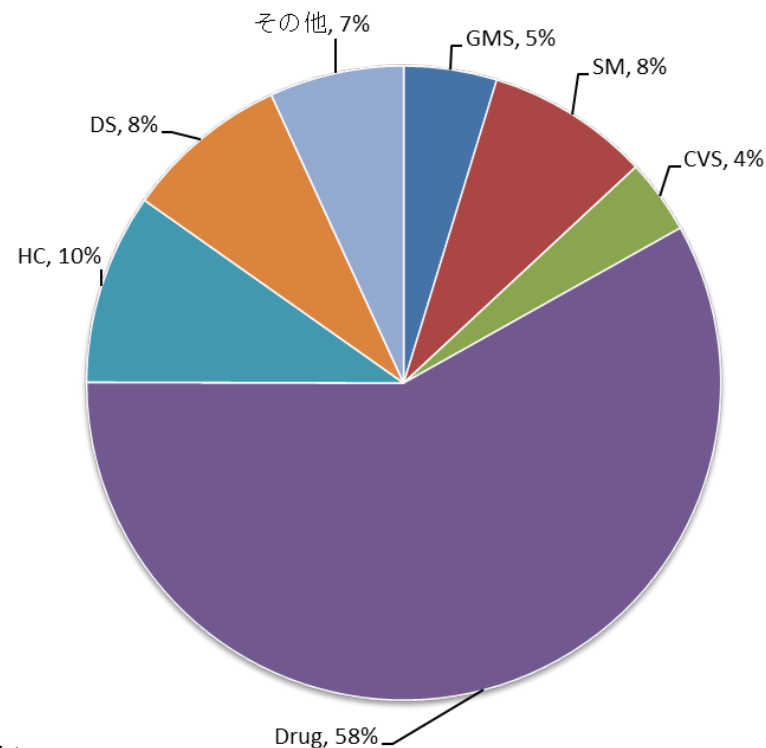
(2) 日用雑貨の返品実態 – 卸売業調査 ②小売業態別の返品率

- 卸売業調査にて、「小売業→卸売業」の返品率を業態別に集計したところ、主要業態全てで返品率は前年度よりも低下した。
 - ドラッグストアの返品率が1.66%程度と高いが、低下傾向にある。

主要業態別の返品率(2018年度～2022年度)



主要業態別の売上構成比
(2022年度)



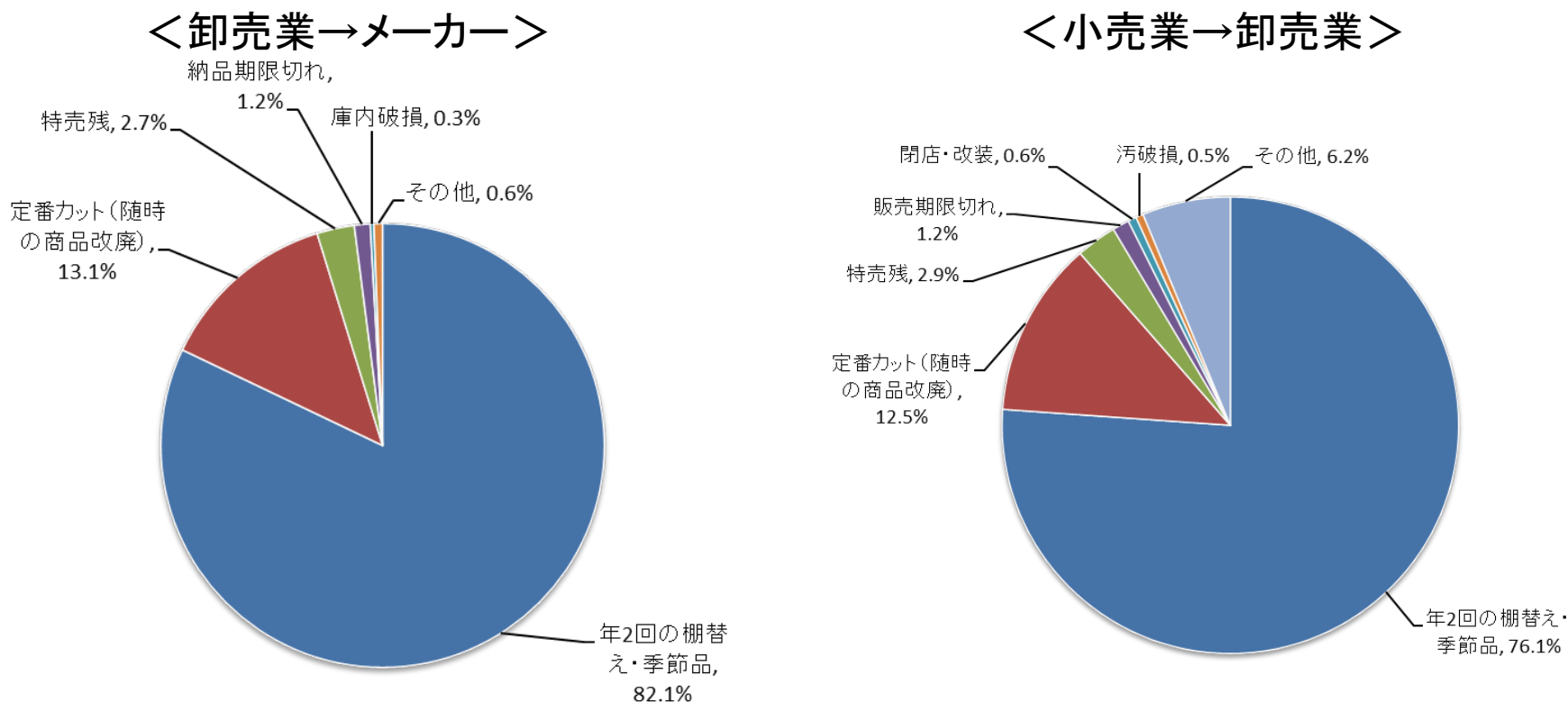
※上図の「全体」の返品率と前頁の返品率とは集計対象が異なるため一致しない。

1.2. 日用品の返品実態報告

(2) 日用雑貨の返品実態 – 卸売業調査 ③返品の発生理由

- 「卸売業→メーカー」の返品の発生理由は、「年2回の棚替え・季節品」（82.1%）が中心であり、次いで「定番カット」（13.1%）となっている。
- 「小売業→卸売業」の返品の発生理由も同様であり、「年2回の棚替え・季節品」（76.1%）が最も多く、「定番カット」（12.5%）が続いている。

日用雑貨の返品の発生理由(2022年度)



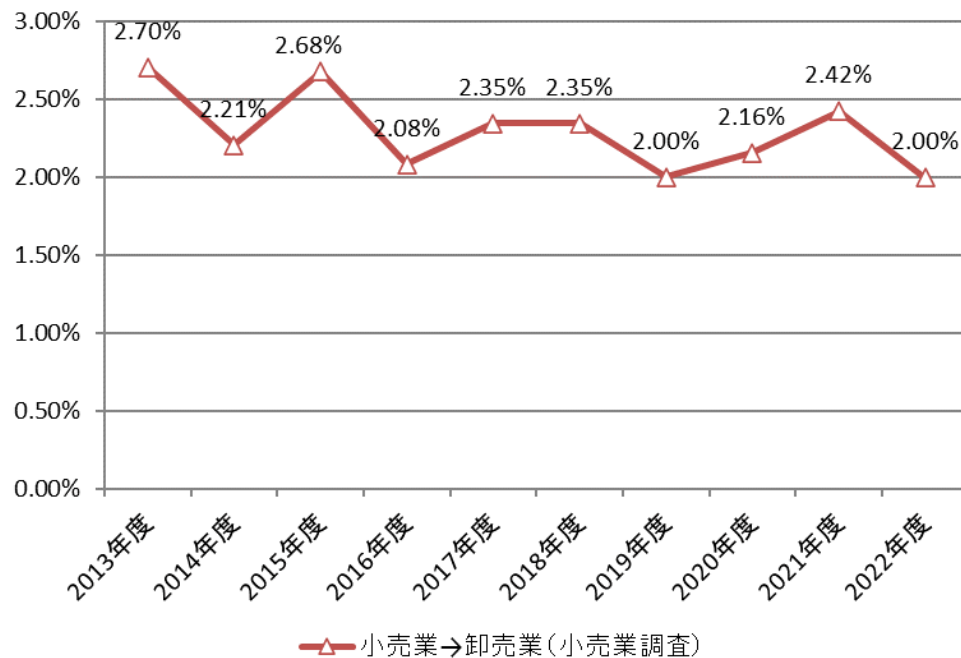
1.2. 日用品の返品実態報告

(3) 返品率・返品発生理由－小売業調査

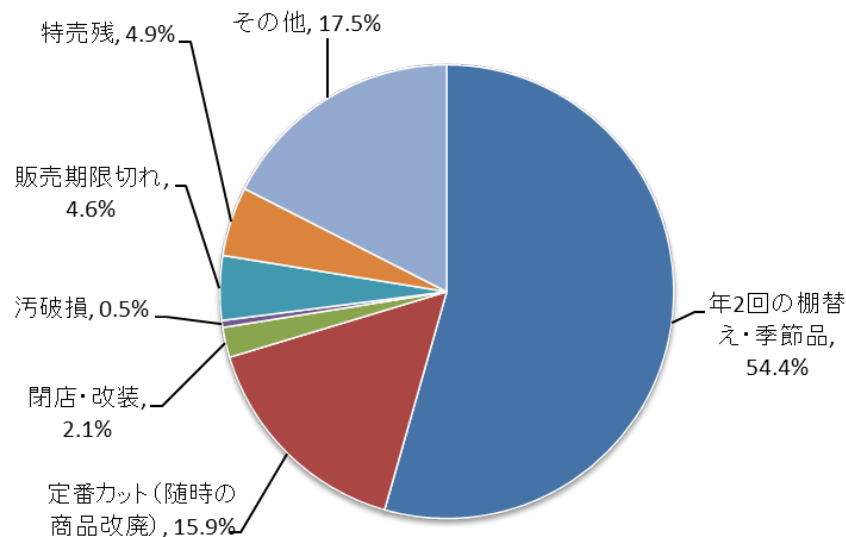
- 小売業調査における返品率は、昨年度よりも低下した。
- 「小売業→卸売業」の返品発生理由は「年2回の棚替え・季節品」(54.4%)、「定番カット」(15.9%) などが多い。

日用品の小売業から卸売業への返品実態

<返品率の推移>



<返品発生理由(2022年度)>



※年度によって集計対象企業が異なる。

※この小売業調査の対象は製・配・販連携協議会加盟小売業であり、前述の卸売業調査の結果(加盟卸売業を対象とした、協議会非加盟の多数の小売業との取引が含まれている回答結果)とは一致しない。

※小売業調査は2021年度に返品対象を一部変更した。この変更に伴い、2015-2020年度の数値も修正した。

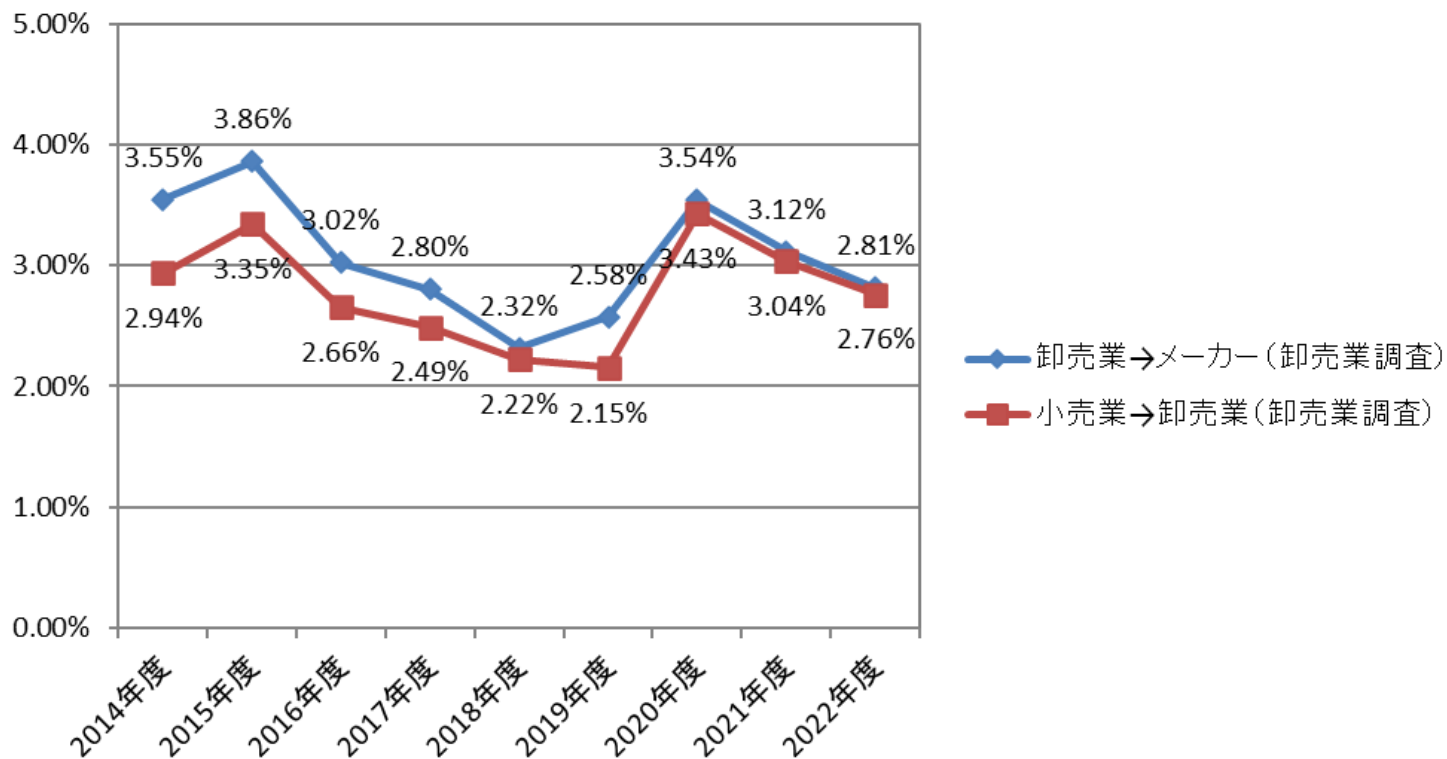
1.2. 日用品の返品実態報告

(4) OTC医薬品の返品実態

■ OTC医薬品の2022年度の返品率は、卸売業からの返品・小売業からの返品いずれも前年度に比べて低下した。

- 「卸売業→メーカー」の返品率は2.81%、前年度より0.31%低下した。
- 「小売業→卸売業」の返品率は2.76%、前年度より0.28%低下した。

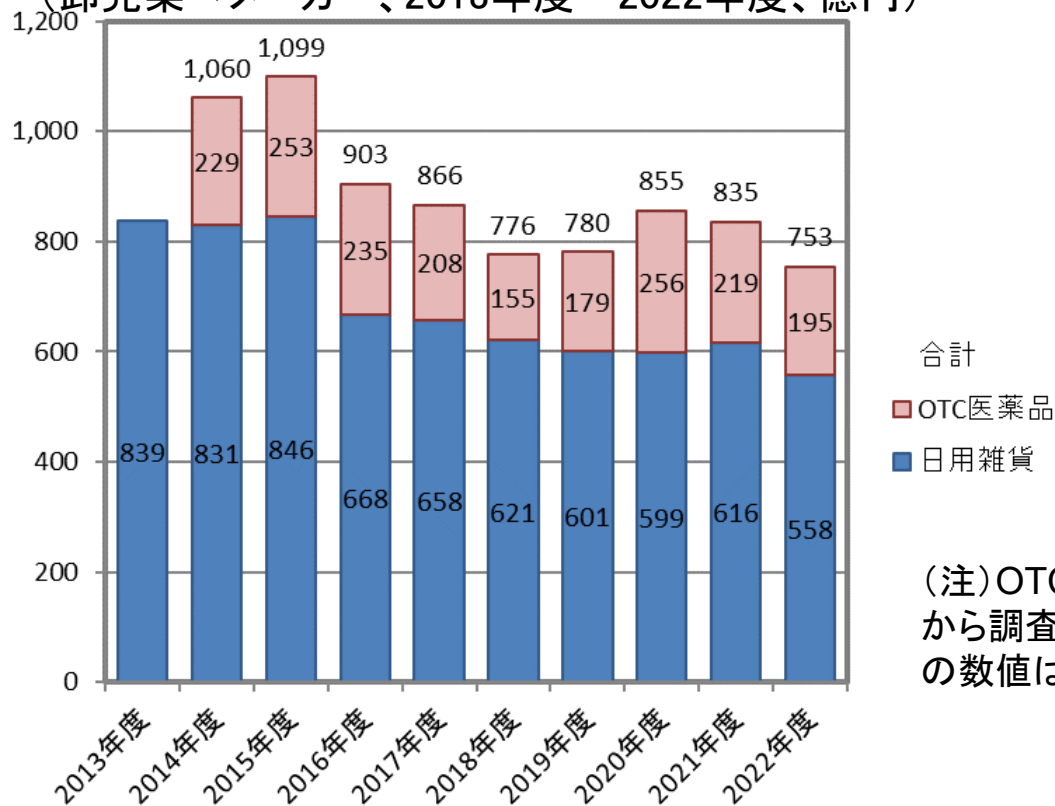
OTC医薬品の返品率(2014-2022年度)



1.2. 日用品の返品実態報告 (5) 業界全体の返品額推計

- 業界全体の「卸売業→メーカー」の返品額を推計した。
- 業界全体の返品額は、2022年度753億円と推計され、日用雑貨は、前年度より58億円減少、OTC医薬品は、前年度より24億減少した。
 - 日用雑貨 : 558億円 (前年度より58億円増加)
 - OTC医薬品 : 195億円 (前年度より24億円減少)

日用品の業界全体の返品額推計
(卸売業→メーカー、2013年度～2022年度、億円)



(注)OTC医薬品は2014年度から調査しており、2013年度の数値は調査していない。